

No.	患者		1 日投与量 投与期間	副作用			
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置			
1	女 40代	成人発症スチ ル病 (なし)	500mg 13日間 ↓ 中止 ↓ 250mg 1日間	アナフィラキシーショック			
				投与開始日	本剤 500mg/日, セレコキシブ, テブレノン, ファモチジンを投与開始。		
				投与 13 日目 (投与中止日)	発熱, 皮疹のため, 本剤, セレコキシブ, テブレノン, ファモチジンを中止した。 パッチテスト: セレコキシブ陽性, 本剤陰性 DLST: セレコキシブ陽性, 本剤陰性		
				中止 13 日後	発熱, 皮疹は消失。ラベプラゾールナトリウム, ジクロフェナクナトリウムを投与開始。		
				再投与開始日 (発現日／ 再投与中止日)	朝, 本剤 250mg を内服後, 数時間で顔面浮腫(特に口唇), 発熱 (38.3 度), 紅斑 (四肢, 体幹), 呼吸苦が発現し, アナフィキシーショックとなった。収縮期血圧: 70 台 mmHg, SpO ₂ 88% (room air)。本剤, ラベプラゾールナトリウムを中止。入院し, アドレナリン 0.3mg 皮下注, 生食点滴全開, メチルプレドニゾロン 500mg を点滴, ノルアドレナリン持続静注, 酸素を投与。血圧, その他症状が安定。		
				再中止 5 日後	浮腫, 紅斑, 発熱も消失したため, 退院。回復。		
臨床検査値							
			投与 開始前	投与 13 日目	再投与 開始日	再中止 1 日後	再中止 3 日後
白血球数 (/mm ³)			4,300	3,700	5,500	17,500	6,900
好中球 (%)			59.0	72.3	92.7	85.0	66.0
好酸球 (%)			1.0	0.3	0.2	0	1
IgE (IU/mL)			—	122	—	85.5	—
CRP (mg/dL)			1.00	1.32	1.86	5.82	1.73
併用薬: ラベプラゾールナトリウム, セレコキシブ, テブレノン, ファモチジン, ジクロフェナクナトリウム							